

# 小学校 第1学年 生活科 学習指導案

北海道教育大学附属旭川小学校  
主幹教諭 菊池 勇希

単元名 もうすぐ2年生（14時間）

単元の  
ねらい

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分の成長を支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、成長への願いをもって、意欲的に生活できるようにする。

本時の  
ねらい

1年間を思い起こして、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかり、自分の成長を支えてくれた人々の存在に気付き、感謝の気持ちを表すことができるようにする。（第7・8時）

指導時期 2月～3月

## 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

本時（第7・8時）は、1年間の学校生活を振り返り、自分の成長と、その成長を支えてくれた人・もの・こととの関わりに気付き、その気付きを学級で伝え合うことをねらいとしている。

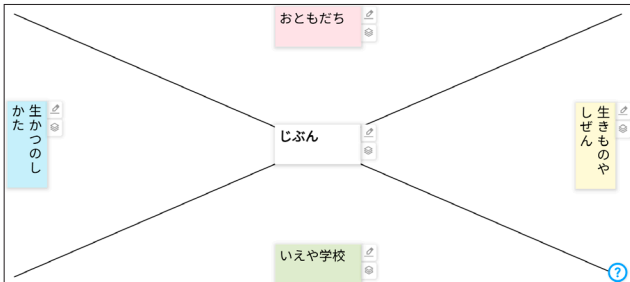
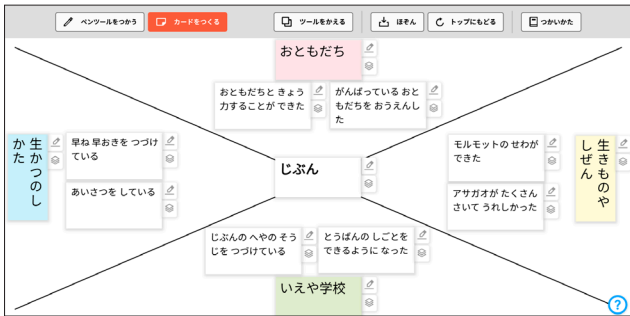

紙の教科書は全体像を俯瞰できる一方で、春・夏・秋・冬の情報が同時に提示されるため、学級の実際の時間軸と照合しながら想起を深めるには工夫を要する。また、教科書には導入からまとめまでの見通しが網羅的に示されているため、児童の思いや願いに応じて情報を選び取り、段階的に提示する設計が難しい場面がある。そこで、必要な要素を拡大・部分提示し、順序や範囲を調整できる「指導者用デジタル教材」の特性を活用する。

具体的には、「ズーム」機能、「スライド」機能で必要な紙面のみを大きく提示して想起の焦点化を図る。続いて「思考ツール」のXチャートを提示し、教師の書き込みや児童の入力を重ねながら4つの視点（友達との関わり／生きものや自然との関わり／家や学校での役割／生活の仕方）で整理し、成長と支えの対応を可視化する。発表の場面では、大型提示装置にXチャートを映し、個々の考えを全体に共有しつつ、学級全体の成長として統合する。完成したXチャートは「思考ツール」上の「ほぞん」より保存して蓄積し、自己評価や次時以降の学習へつなげる。これらの機能を活用することで、学びの可視化と構造化、ならびに相互に伝え合う力の向上が期待できる。

## 本時（第7・8時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> </ul>	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を確認しながら、これまでの学習を振り返る。</li> <li><b>T</b>：前の生活科の時間では、どんなことをしたかな？</li> <li><b>C</b>：園児さんに小学校を案内したよ。</li> <li><b>C</b>：上手になったことを教えてあげたよ。</li> <li><b>C</b>：教科書やランドセルを見せてあげたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ズーム」機能を活用し、教科書p.110-111の画面を大きく示して、これまでの学習の想起につなげる。</li> </ul> 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>小単元名「1年かんを おもい出そう」から学習課題を捉える。</li> <li><b>T</b>：ここに「1年かんを おもい出そう」と書いてあるね。どんな学習をしていくとよいかな？</li> <li><b>C</b>：1年間であったことを思い出す。</li> <li><b>C</b>：1年間でできるようになったことをみんなで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ズーム」機能を活用し、教科書p.112の小単元名の画像を大きく示して、発問する。</li> </ul> 
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学してからのできごとを発表し合い、1年間で振り返る。</li> <li><b>T</b>：これはいつの季節の写真かな？</li> <li><b>C</b>：これは夏。春よりも山が緑だから。</li> <li><b>C</b>：アサガオも咲いているね。</li> <li><b>T</b>：そうだね。みんなは「夏」にどんなできごとがあったかな？</li> <li><b>C</b>：運動会があったよ。</li> <li><b>C</b>：かけっこや玉入れをしたね。</li> <li><b>C</b>：いっぱいがんばったよね。</li> <li><b>T</b>：どうしてそんなにがんばれたの？</li> <li><b>C</b>：足が速くなりたかったから。</li> <li><b>C</b>：友達が応援してくれたから。</li> <li><b>C</b>：家族も応援してくれたからね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「スライド」機能を活用し、春・夏・秋・冬の画像を1つずつ提示して、各場面の想起につなげる。必要に応じて、「ペン・マーカー」機能などを活用し、考えをまとめる。</li> </ul> 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「友達との関わり」「生きものや自然との関わり」「家や学校での役割」「生活の仕方」の4つの視点から、自分の成長をまとめる。</li> <li><b>T</b>：今日は、みんなの成長をこのXチャートにまとめていくよ。どんなことが書かれているかな？</li> <li><b>C</b>：上は友達のことだね。</li> <li><b>C</b>：右は生きものや自然のことだね。</li> <li><b>C</b>：下は家や学校での役割のこと。</li> <li><b>C</b>：左は生活の仕方だね。</li> <li><b>T</b>：そうだね。今日はこの4つの視点で1年間の自分を振り返ってみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ズーム」機能を活用し、教科書p.113のXチャートを提示して、「友達との関わり」「生きものや自然との関わり」「家や学校での役割」「生活の仕方」の4つの視点から、1年間の自分を振り返ることを明確にする。</li> </ul> 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<p>(机間指導をしながら問う。)</p> <p><b>T</b>：〇〇はどうしてできるようになったの？</p> <p><b>T</b>：どんなことをがんばったの？</p> <p><b>T</b>：今は〇〇だけど、前はどうだったの？</p>	<p>●「思考ツール」機能を活用して作成したXチャートをもとに、学習支援ソフトウェアなどを活用し、個人で考えをまとめる。</p>  <p>●児童が個別のXチャートにまとめた「自分の成長」を発表し合う。</p> <p>(考えを整理しながら必要に応じて問い返す。)</p> <p><b>T</b>：〇〇はどうしてできるようになったの？</p> <p><b>T</b>：どんなことをがんばったの？</p> <p><b>T</b>：今は〇〇だけど、前はどうだったの？</p> <p>●児童のXチャートをモニター等に映しながら発表する。</p> <p>●「思考ツール」より未入力のXチャートを大型提示装置などに映す。「書き込み」機能を活用し、児童たちの発表内容を教師が1つのXチャートにまとめる。</p> 
	<p>●全体でまとめたXチャートをもとに、本時の学習を振り返る。</p> <p><b>T</b>：今日はみんなで1年間を思い出したよ。みんな、いろんなことができるようになったみたいだね。</p> <p><b>C</b>：〇〇ができるようになったよ。</p> <p><b>T</b>：みんなの考えを聞いて、できるようになったのはどうしてだと思う？</p> <p><b>C</b>：自分ががんばったから！</p> <p><b>C</b>：自分だけでなく、助けてくれた人がいたから。</p> <p><b>T</b>：そうだね。みんなもがんばったし、支えてくれた人もいたから、みんなはたくさん成長したんだね。これからももっと成長していきたいね！</p>	<p>●「ズーム」機能を活用し、教科書p.112の小単元名の画像を大きく示して、発問する。</p> 
まとめ		

## 指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

### 〈学習者の面〉

導入時に必要な紙面のみを「ズーム」機能で拡大・部分提示できるため、学習者の注意が持続しやすく、四季の写真を手がかりに1年間のできごとを想起する流れが滑らかになった。Xチャート上に4つの視点が常時可視化されることで語る観点が明確になり、自分の「できたこと」を支えてくれた人・もの・ことと自分の成長を結びつけて表現しやすくなった。さらに、個別の入力を全体に投影して発表・質疑を行う過程で、友達の気付きを受けて記述を追加・修正する姿が生まれ、「気付き→整理→伝え合い」の循環が教室全体に広がった。その結果、児童は自分の成長を根拠づけて語る力を高めると同時に、成長を支えてくれた存在への感謝の気持ちを深めることができた。

### 〈指導者の面〉

「思考ツール」や「ペン・マーカー」機能を使うことで、児童の発言や記述をその場で収集・分類でき、板書の負担と所要時間を抑えつつ、発表や相互評価の時間を充実させることにつながった。また、学習支援ソフトウェアの提出一覧を併用すると、児童の入力状況や理解の偏りを即時に把握でき、個別の声かけや追加発問を適切に行うことができた。さらに、授業中に更新したXチャートを「思考ツール」上の「ほぞん」より保存することで、形成的評価の根拠を蓄積でき、次時の学習や学級通信を通した家庭への共有に再活用できた。